

第61回 日本臨床心理学会大会

「ともに」を模索し考える

——その難しさ、楽しさを体験しながら

日程 2025年

11月21日(金)・22日(土)

会場

岡山市きらめきプラザ

「ともに」は、まず「分かち合う」ことでしょう。

分かち合えば、喜びは倍になり悲しみは半分になる——こうよく言われます。ただ、それは「仲間同士」に限られていることが多いのではないのでしょうか？

また、仲間同士でも、本当に分かち合いたいことには、デリケートで難しく、表現できないことも多く、しばしばすれ違ってしまいます。そもそも分からないことだらけです。深く分かち合おうとすると、コトは複雑化し危険な事態を招くこともあります。

「ともに」はまた、自分とは違った人々との「共生」を意味しますが、それも簡単なことではありません。「差別」という問題にも重なっているからです。「共生」のためには、まずはお互いの違いを認め合うことと人々の「多様性」が尊重されることが不可欠です。しかし、現実の世界のなかでは、さまざまな難題が次々に立ち現れてきます。そんな中私たちは、「共生」を「対話」に連結させ、絶えざる努力と工夫をしながら「対話」を続け、どのように「共生」を少しずつでも実質的で意味のあるものにできるか、これを考えたいと思います。

「対話」は、かなり前から、キーワードのように話題にされてきていますが、同質性が前提になっている組織や社会では、それは「分かち合い」よりもずっと大変で、容易ならざることが実は多いと思われれます。そして、形式や儀式的が高く評価される社会では、表面をとりつろうのに忙しく、「対話」は単に掛け声だけになっていることも大いにあるのです。

この辺りの実際を具体的に話し合い、問題や課題を分かち合うことはできないのでしょうか？ 「ともに」を単なる空念仏にしないために、この大会を「ともに」学び歩んで行く道にしたいと本気で考えています。そして、大会を単なるお祭り=イベントにしないために、何ができるか、どうしたらいいか？ これを絶えず模索して行きたいのです。「ともに」です。

★★ 日臨心（日本臨床心理学会）は、他の多くの学術団体とは違って、専門家だけの団体ではありません。大会は専門家だけの研究発表の場ではありません。関係者すべてが、苦悩や問題を分かち合い、一緒に考えることを大事にします。さらには一般の人の考えや外からの発想も大切にします。そうして、容易ではなくとも、しんどかったり辛かったりする体験からも「ともに」学んで行くことを、そしてその道のりを大切にしたいと思っています。

日臨心公式サイトをご覧ください。 <http://nichirinshin.info/>